

統計行政新生部会 第1回 提出資料 成蹊大学法学部 西村美香

1. 統計行政についての問題意識

1) 電子化の遅れ

- 煩雑な手間
- 人手不足・協力敬遠に拍車
- 官民の共有財産としての活用を限定 “オープンデータ”化を阻害
- 統計行政を密室化し、外部からの不正確認が困難に

2) 学士卒・ジェネラリスト優位体制での専門性の不足

- 人手不足をより深刻化
- 不正か否かの判断力やご都合主義的な統計利用への危機意識が不足
- 政策の基盤としての統計行政の発展を阻害

3) 不正を摘発・予防できる仕組みが不十分

- 「全体の奉仕者」としての責任感・倫理観も後退

2. 総合的対策を検討していく上で論点とすべき事項

<行政全般>

- 1) 行政における統計の役割と意義、そして限界についての共通理解
- 2) 各府省・地方公共団体それぞれの現場における問題点の洗い出し
 - 問題点に応じた具体的対策の検討
- 3) 統計行政における不適切な事例の発見・対処方法

<公務員制度>

- 4) 公務員制度における専門性のあり方を、政官関係や民間との関係で再検討
 - ・それぞれの関係において生じる軋轢は何か
 - ・「全体の奉仕者」としての責任をどうとるべきか
- 5) 統計行政にふさわしい人事管理のあり方
 - ・任期付採用・非常勤・官民人事交流などの活用にとどまらず、統計の専門家が統計行政の要となるポストに系統だって配置できているか
 - ・統計行政の専門家の育成に適したキャリア・パスはどのようなものか
- 6) 業務改革と並行した働き方改革の推進とモチベーションの向上

<長期的・全体的課題>

- 7) 官民あがての統計知識の涵養